

NHK番組ファミリーヒストリー TRF・SAMさんの調査に協力して 「徳山藩の産業発展に尽くした岩崎家」

会員 栗崎 健

SAMさんとは

SAMさんの本名は丸山正温^{まさほる}。日本のダンサーで、TRFのメンバーである。埼玉県岩槻市（現在のさいたま市岩槻区）出身、一九六二年一月十三日生まれ。先祖は岩槻藩士で、明治時代から代々医者系の系譜。父は産婦人科医でさいたま市の「丸山記念総合病院」の創設者の一人・丸山正義。SAMさんの活動はTRFのみに限らず、V6やBoA、昨年、引退した安室奈美恵（SAMさんの前妻）などの振付・ライブプロデュースなども行なっている。

（Wikipediaより）

NHK影嶋裕一氏との出会い

昨年四月某日、突然、なぜか路上で友人に紹介された。不思議な縁である。いただいた名刺には「NHK制作局 ディレクター 影嶋裕一」とあった。わざわざ東京から来られたということなので別の友人との約束を断り、近くの喫茶店にお誘いした。SAMさんのファミリーヒストリーの取材に來られた由、結局、SAMさんのことは極秘にして、調査の協力を依頼されたのだが、恥ずかしながらSAMさんが何者かも知らなかった。ただ、先祖が徳山藩士らしいという言葉に興味を持ち、とりあえず、軽い返事をした。

しかし、喫茶店ではこちらが誘いながら、その場のコーヒーをご馳走になってしまった。一杯のコーヒーの代価は重かった（笑）。

この番組は大勢の人で一気に作り上げるものではなく、ただ一人のディレクターが根気強く作り上げていく番組だそうで完成まで五か月は要するそうだ。そうして、SAMさんの番組も影嶋ディレクターの手により、無事完成し、昨年十一月全国放送されるに至ったわけだが、父方が有名なだけに、母方の故郷徳山の映像は二割くらいにすぎなかった。せつかくであるからここに調査した証を残しておきたいと思う。

岩崎家の系譜の調査

SAMさんは有名人であるから、先にMemoから引用したように、情報は溢れている。しかし、母方の情報はほとんどない。今回のNHKファミリーヒストリーの番組のため、影嶋氏がSAMさんの母方の戸籍調査をされており、高祖父岩崎三四郎まで判明していた。しかし、

わかったのは名前だけで詳細は全く不明であった。

この情報をいただき母方の調査を始めた。

SAMさんから一代ずつ遡ることにする。

母温子^{ほんこ}は東京生まれの東京育ち。学習院大学英文科を卒業している。温子の父（SAMさんの祖父）岩崎寛一は東京の開業医であり、温子の母（SAMさんの祖母）は大審院判事・徳山町長（現周南市）堀田馬三の四女である。裕福な家庭に育ったことは想像に難くない。

人物事典をかたっぱしから調べていくと、『防長人物百年史』に祖父の岩崎寛一が写真入りで掲載されていた。影嶋氏の事前調査では、この本にめぐりあうことがなかったらしく、これにより、寛一の詳細が判明した。

それによると、寛一は外科・産婦人科岩崎医院院長で、医学博士である。明治三十一年（一八九八）岩崎眞治郎の長男として徳山市一番丁に生まれ、徳山中学（十五期卒）から慶応義塾大学医学部に進む。勤務医を経て、昭

和九年東京豊島区にて開業。「(前略)資性温厚誠実にして頗る研究心に富み、思想高遠、自信力に強く、研究に精励(中略)努力、克く今日の榮譽と地位を獲得するを得たり。氏の如きは刀圭界に看過すべからざる雄才なるかな。(後略)」等々、詳しく著されていた。

徳山高校同窓会名簿でも確認することができた。

影嶋氏の情報に先祖は徳山藩士ではないかという事項があり、私の今まで調査した徳山藩士を調べてみるが、三四郎の名前は見当たらない。今一度、徳山毛利家譜録の岩崎家も調べてみるが、これにも該当者はいない。

次に、『徳山市史』と『徳山市史史料』を調べる。

岩崎三四郎。出てくるー出てくる！

「明治四年(一八七二)士族授産により制産方を家職に移管して制産社と改め、拡大発展、製油精蠟を主とした広範な産業分野の経営へと進出していった。社長に元徳山藩士遠藤貞一郎。製油方司事に岩崎三四郎が任命される。」「制産社は明治十年(一八七七)ごろまでの徳山

を中心とした周辺地域における殖産産業の拠点をなす。」
「制産社の事業停止に際し、土地、建物は、岩崎三四郎のこれまでの功績を考慮し、また、従来特別縁故があったという理由で同人に安く譲渡される。」等々。

また、事業の中心人物となって『元制産方金銭請払帳』『制産社金銭請払帳』『製蠟方後勘算用仕出帳』『製油方勘定仕出帳』等の資料を残している。徳山の歴史に確かな足跡を遺していた。

果たして、この岩崎三四郎がSAMさんの高祖父であろうか。しかし、それを証明するものは何もない。

徳山藩士以外の岩崎姓は「岩崎三左衛門」「岩崎藤助」の名前があり、気にかかる。藤助が次のような文書を残していた。

徳山本町屋号磯松屋 岩崎藤助(以下要約)

一、寛政十一年十二月朔日父三左衛門七人扶持方下げ置かれる

一、享和二年二月二十日身柄一代苗字差し許される

一、享和三年九月三日、永代長老格仰せ付けられる

一、文化十一年十二月二十七日身柄一代御領外工出候節
帯刀許される

『御領町人御仕成』南陽町中山栄氏蔵

これによって、三左衛門と藤助は親子であることが判明した。

また、徳山町の中心地である山陽道幸丁に、間口十間
の大きな住居を構えていることもわかった。相当な財を
なした町人のようだ。しかし、三四郎との接点は何も見
出せない。

『徳山市史』『徳山市史史料』の調査を終える。

次に山口市にある山口県文書館に行った。

「岩崎三左衛門」「岩崎藤助」「岩崎三四郎」そして「岩
崎百合蔵（謄本に記載）」の名前を見つけるために。

『榼蠟板場職全録』『諸町願事 文化十年・十二年』『御

領町人御仕成覚』『御家職御沙汰並諸所願伺類』『家職方

日記』『徳山家職貸付出納表』『御家職方諸控』それらし
き文書に片っ端から目を通す。これらはすべて徳山毛利
家文書として保存されているものである。

果たして、三左衛門、藤助親子は榼蠟の板場（江戸時
代の蠟の絞り場）を経営している町人である事が判明。
しかも、蠟作りが徳山藩直営に移行する時、名乗りを上
げ委任された榼蠟板場の有力者であることもわかった。

直営の板場になる条件として（以下要約）

一、決められた板場の規模を、勝手に縮小してはならな
い。その運上銀は一ヶ年百八十枚。商売繁盛すれば運上
銀は値上げする。

一、仕事を受けられることによって、礼金として毎年銀
五十枚ずつ三ヶ年払うこと

一、工場の設備や必要な道具は自前でそろえること
等々

『榼蠟板場職全録』山口県文書館蔵

多額の運上銀など、大変、厳しい条件の藩営ということで、廃業を余儀なくされる同業者も出る中、それでも引き受けた理由は何だったのであるうか。

想像するにも、もちろん相当な経済力があつたこと、代々続いてきた家業への誇り「やめてたまるか」、そして、徳山藩の為にも蠟産業を發展させたいという強い使命感「俺がやらなくて誰がやる」が、あつたのではないだろうか。徳山藩を代表する燻燻板場の経営者であつた。

先の調査で、三四郎も同様の燻燻の仕事に就いている事はわかつていた。ということも、もしやすべて一族？その後、調べれば調べるほど、彼等は同じ岩崎家一族に間違いなことを確信するが、依然、それを証明するものがない。ここに来て、探し物はただ一つになった。

徳山市史に「藤助の父三左衛門」とあつたように「三四郎の父藤助」という親子関係を証明する文字を見つければはないということである。

日頃からお世話になつてゐる山口県文書館の吉田真夫研究員に助けを求めた。町人の名前がたくさん出てくる史料をできるだけ教えてくださうと。

湯田温泉に泊まり、翌、文書館二日目の夕方であつた。「三四郎の父藤助」と書かれた文書発見だなんて、そんな虫のいい話しはないよな。今日はもう諦めよう！と思つて最後の『御領内町方格書中御仕成並印鑑』なる文書をめくつていたところ、奇跡が起きた。この、発見した三四郎の文書が、先に見つけていた藤助の『御領町人御仕成』（前出）の内容、日付と一致したのである。

覚 岩崎三四郎 印（以下要約）

一、御上下地 寛政六年十二月十日御書付を以て仰せ付けられる

一、永代七人御扶持 寛政十一年十二月御沙汰仰せ付けられる

一、永代年寄格 享和三年九月三日御免し仰せ付けられる

一、父一代御領外帯刀 文化十一年十二月二十七日御免し仰せ付けられる

一、永代苗字 安政三年十一月十五日御免し仰せ付けられる

『御領内町方格書中御仕成並印鑑』山口県文書館蔵

まさに三四郎が「父藤助、祖父三左衛門」と記しているかのような親子関係を証明する文書である。

心で「やったあ！ あったあ！」と叫んだが、吉田研究員の前では興奮して言葉にならない。ただ頭を下げて文書を指差した。

「奇跡の一枚」である。

これにより岩崎三左衛門、藤助、三四郎は三代続いた一族であることが判明した。しかし、この三代続いた岩崎家と、SAMさんの高祖父三四郎一族が同じだと証明するものはいまだ何もない。本当に岩崎三四郎は同一人物なのか。確信はあっても断言はできない。

すべてを証明するためにお墓探し

私は徳山藩士を調べるために、よくお墓巡りをする。お墓には没年が記してあり、一族と一緒に葬られている事が多い。墓碑に功績が記してあることもあり、新しい発見も多々ある。時には手をあわせ、時には掃除しながら、先人たちと会話する。知らない人がみたら、変質者と思うかもしれない。(気をつけよう！)

岩崎家のお墓がわかれば何かわかるかもしれない、今度は岩崎家のお墓探しを始めた。徳山旧市内にはたくさん大きな墓地がある。まずは西の北山墓地から始めた。江戸時代のお墓ということになれば、文字も薄れているだろうし、片隅に埋もれているかもしれない。古い墓碑を特に目標とし隅から隅まで歩き始めた。探しても探しても無い！一ヶ所にまとめられた無縁墓や文字が読みとれない墓がわんさかある。反して、岩崎姓の墓は意外に少ない。時間ばかりが経過する。何日歩いただろうか。ついに回る予定の最後の墓地、大迫田墓地に来てし

まった。北側から調べることにした。

戸籍謄本からわかった三四郎の子孫には、跡を継いだ眞治郎（SAMさんの曾祖父）、そして、眞治郎の子供、寛一（SAMさんの祖父）と繁がいる。

岩崎家の墓碑は相変わらず見つからない。広い大迫田墓地最南端の金剛寺墓地にたどり着いた。実に、今回、市内を歩きまわって十二ヶ所目の墓地だ。それも残すところあと一区画しかない。その辺りは悲しいかな、新しい墓碑が多い。

今まで調べた岩崎家の人々が一緒に祀られていないものか。そんな虫のいい話は二度もないよな。独り言を言いながら、最早あきらめ、最後の墓碑を眺めた。まさに、ポツと眺めた。これで墓探しは終わってしまうと思いつつ。墓碑の向こうは鬱蒼とした山だ。

まさか、ポツと眺めたその大きな墓碑には岩崎繁と書かれていたのではないか。目を疑った。その墓碑を建て

たのは眞治郎とその妻であり、碑文が添えてある。その前の自然石の墓碑には、まさか、まさか岩崎三四郎と刻まれている。周りには時代を経た古い墓碑がたくさん並んでいる。二度目の奇跡。叫びました。今度は大きな声で「やったあ！ あったあ！」思わず周りに人がいないのを確かめて、何度も「よかったーよかったー」と呟く。奥には三左衛門夫婦と藤助夫婦、そしてその子供たちであらうか、それぞれ戒名が納められた祠が三宇。百合蔵のお墓もある。なんだかみんな笑っているようである。

寛一の墓はない。寛一は東京に出て行き、戻ることはなかった。この墓所は、徳山に住み、徳山で生命を繋いだきた紛れもない岩崎一族のものであった。

あたりの墓地は雑草に覆われ、いつのまにか、記録的な暑い夏になっていた。

劇的、出来すぎたストーリーの完成

文書館で発見した奇跡の一枚、そして一族の墓所。もし、これらを早く発見していたら、これほど時間をかけ

ず、簡単に系譜を確認できていたであろう。しかし、もし、そうであったなら、彼らの功績や生き様をこれほどまでに知り得たであろうか。調べて、調べあげたからこそ、証明が必要になり、この奇跡が起こったのである。

エピソード

江戸時代、防長四白と言われた徳山藩の重要な産物のひとつ、蠟。その蠟産業の発展に尽くした三左衛門、藤助親子。居を構えていた場所は現在の銀座、元近鉄松下の地であり、当時も山陽道徳山の町の中心地であった。そして、三四郎は、代々続いた家業を引き継ぎ、明治初期の激動期には、士族授産の役割に欠かせない人物として活躍、また、徳山郵便局二代目局長も勤め、末裔に多くの遺産をも残した。それを継いだ眞治郎も息子を医師（寛一）や実業家（繁・その後戦死）に育て、ますます岩崎家の繁栄に尽くした。しかしながら、十九歳で全国ダンス大会優勝、その後渡米、プロのダンスと音楽の世界へ羽ばたき、舞台やテレビで活躍するそんな現代のSAM

さんに繋がっていくとは、ご先祖様もびっくりであろうか。とにもかくにも、SAMさんの母方の故郷は、この徳山の地であった。

今回の調査は、まさしく先人のお導きがあったと信じる私である。最後に、SAMさんの益々のご活躍を心よりお祈り致します。

*NHK番組「ファミリーヒストリー」[TRF・SAM]は昨年十一月二十六日に全国放送され、周南市も紹介されました。ディレクター影嶋裕一氏、撮影田口晴久氏、音声花澤輝夫氏、山口県図書館専門研究員吉田真夫氏をはじめ山口文書館の皆様、大変お世話になりました。御礼申し上げます。

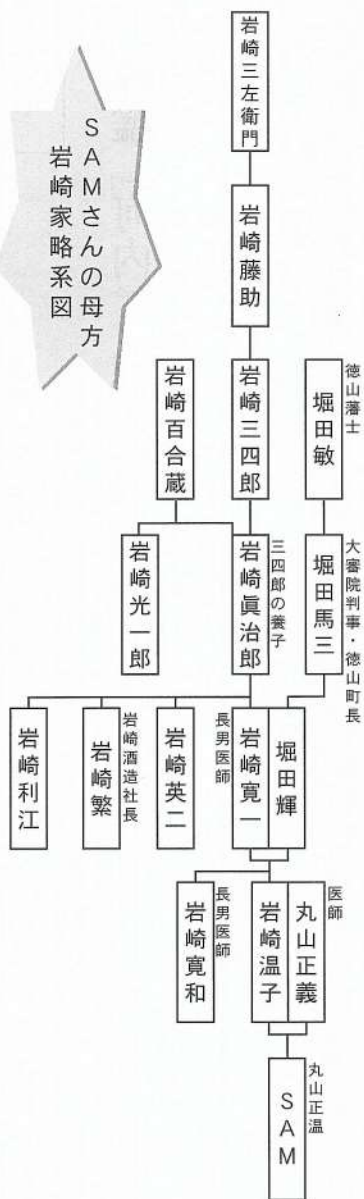
〔参考文献〕

『徳山市史』『徳山市史史料』徳山市史編纂委員会

『防長人物百年史』末弘錦江著

『榎板場職全録』『御領内町方格書中御仕成並印鑑』他文中『』で記している文献はすべて徳山毛利家文書

SAMさんの母方
岩崎家略系図



近鉄松下跡地にて



山口県文書館にて



岩崎家墓所にて